

シャフルボードの概要

横浜シャフルボード協会
 NPO 法人 横浜シャフルボード協会
 Homepage : <http://ysa3.web.fc2.com/>

内容

1	当協会の紹介	11	ゲームの進行及びスコアボード記入方法
2	シャフルボードのプレーの概要	12	シャフルボードの基本技術
3	シャフルボード小史	12-1	先攻の定石（予めガードを置く）
4	横浜市営のシャフルボードコート	12-2	予め置いたガードへの対応
5	コートと用具	12-3	競技に勝つ基本戦法
6	得点エリアと得点	12-4	ダブル得点
7	ディスクをシュートする位置	12-5	相手がシュートする経路を塞ぐブロック
8	キューの持ち方	12-6	自分の得点ディスクを守るカバー
9	ディスクをシュートする方法	13	プレーの写真
10	ゲームの種類	14	シャフルボードの技術資料

1. 当協会の紹介

横浜シャフルボード協会（略称 YSA）は、都筑区葛が谷公園内、市営コンクリート製コートが拠点の、1988年創立、会員約90名のプレーを楽しむ団体。入会金1,000円、年会費1,000円。

NPO法人横浜シャフルボード協会は、2007年2月、横浜シャフルボード協会の有志50名が、良く滑るコートでプレーする中高年者向きシャフルボード普及を、事業目的として設立した。

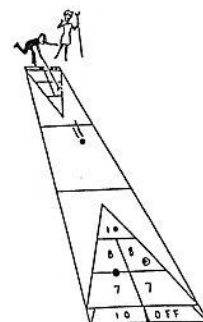
横浜市内及び他の地域のコンクリート製コートの団体と協力してプレーヤーの増加を図り、欧米で使われている体育館用の良く滑る可搬式コートを紹介する普及事業を行っている。

2. シャフルボードのプレーの概要

シャフルボードは、ボーリングのレーンのような細長く両脇にガターがあるコートで、2人のプレーヤーが、1人はイエロー、1人はブラックのディスク（小型円盤）各4枚を、交互にキュー（押し棒）でシュートして、コートの向う端のスコアリングダイアグラム（得点エリア）に入れる点取りゲームのスポーツ。

競技はスコアボードのある側のコート端（コート・ヘッド）から始める。イエローのプレーヤー先攻で、2人が各4枚のディスクをシュートして、得点エリアに残ったディスクの色別の総得点をスコアボードに記入して第1フレームが終わる。コートの反対側（コート・フット）へ行き、ブラックのプレーヤー先攻で同様にプレーして、色別の総得点と第1フレームの得点との累計得点を、スコアボードに記入して第2フレームが終わる。このプレーを所定のフレーム数、例えば12又は16フレーム行い、累計得点が多いプレーヤーが勝者。

コートはコンクリート製でコート上に細かいガラスビーズを撒くので、ディスクは氷上のように良く滑り、カーリングと同じ様な戦法でプレーを行う。腕力や体力が不要で、戦法を絶えず考えてプレーする中高年者向きの楽しいスポーツ。



3. シャフルボード小史

シャフルボードの起源は、英国諸島で古くから行われた数種類のゲームと言われている。15世紀に銀貨を押すゲームがあり、18世紀には泥を固めたコートでプレーしたショベルボードがあった。1870年、シャフルボードはイングランドとオーストラリア間の定期船の甲板スポーツになり、世界中の客船で行われるようになった。1913年、船でプレーしたフロリダのホテルのオーナーが、ホテルの庭にシャフルボード・コートを作った。陸上の人気スポーツになって、米国各州に広がった。1931年、米国ナショナル・シャフルボード協会を設立し、コート、用具、ルールが統一されて、近代シャフルボードが発展した。アメリカ、カナダで特に盛んだが、世界各国に次第に普及している。日本にシャフルボードが紹介されたのは、戦後間もなく、国際基督教大学の宣教師が校内にコート2面を作った時と言われている。現在は、屋外のコンクリート製コートでプレーするグループと、日本レクリエーション協会製の可搬式コートを体育館に敷いてプレーするグループがある。

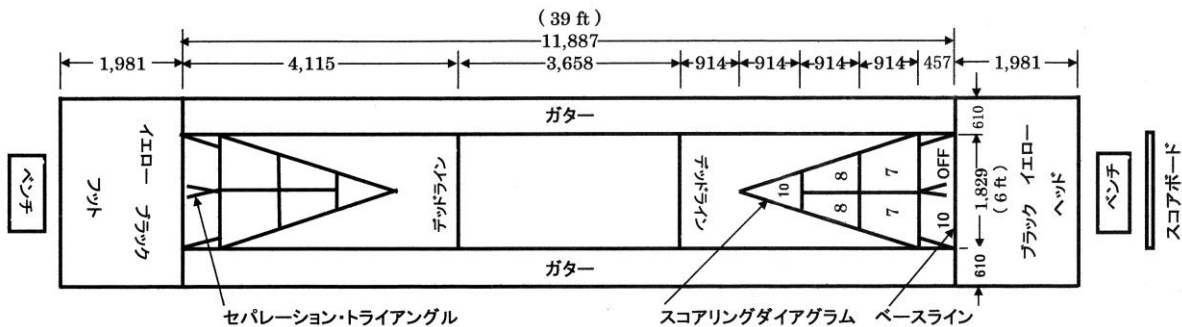
4. 横浜市営の正規のコンクリート製コート

都筑区	葛が谷公園	12面
戸塚区	戸塚柏桜荘	3面
西区	平沼さわやか公園	2面
泉区	泉スポーツセンター	2面

5. コートと用具

5-1 正規のコンクリート製コート

(寸法単位は mm)



5-2 可搬式コート (体育館に敷設する。サイズは正規のコンクリートコートと同じ)

(1) ビニール製コート (日本レクリエーション協会が 2011 年から販売)

ディスク底面にシリコンスプレーを塗る。滑りは不十分だが、プレーを楽しむことができる。

(2) ビニール製コート (当法人が普及活動に使っている米国製)

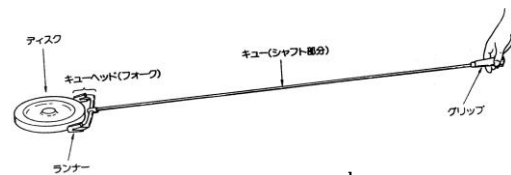
プラスチックビーズを撒くので、ディスクが良く滑り、本格的プレーができる。

(3) プラスチック製組立式コート (横浜市助成金で購入し、普及活動に使っている米国製)

30cm×30cm のタイルを嵌め込み連結して組立てる。屋外でも使用可能。タイル表面の特殊形状とディスクにワックス塗布により、ディスクが良く滑り、本格的プレーができる。

5-3 ディスク(Disc)とキュー (Cue)

ディスクは、イエローとブラックを各 4 枚使う。直径約 15cm、厚さ約 2.5cm のプラスチック製。ディスクをシュートするキューは、全長が約 190cm。シャフトは、材質は各種あり、1 本物と 2 本物がある。

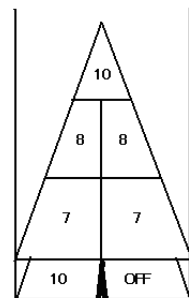


5-4 ビーズ

コンクリート製コートは、球形のガラスビーズを全面に薄く撒く。ビニール製コートはプラスチックビーズを撒く。

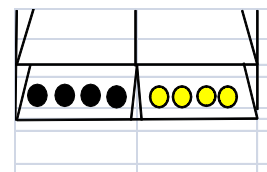
6. 得点エリア (スコアリングダイアグラム) と得点

コートの両端に、得点エリアがあり、その中に、10 点、8 点、7 点、10-OFF (マイナス 10 点エリアがある。ディスクが、この得点エリアに、ラインに触れないで入ると得点。但し、10-OFF エリア内のディスクを置く場所を分ける三角形 (セパレーション・トライアングル) に触れても、マイナス 10 点。



7. ディスクをシュートする位置

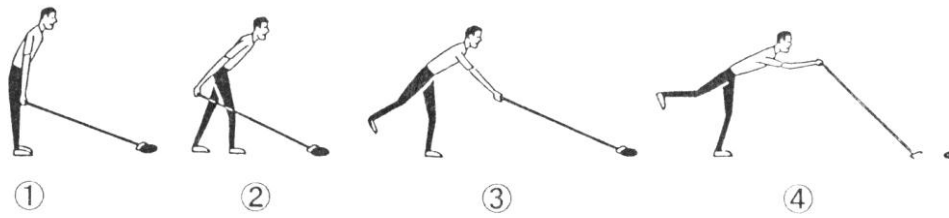
得点エリアの中の 10-OFF エリアがスタートエリアを兼ねている。スタートエリアの中にイエローディスクを、コート・ヘッドでは右側に、コートフットではヘッドと同じ側に並べる。ディスクは全て、ラインや真ん中にあるセパレーション・トライアングルに触れないように置く。ディスクは、目標を狙うのに最適の位置からシュートする。



8. キューの持ち方

グリップを、真上から指先で軽く持つ。エイミングからフォロースルー迄のシュート中に、キューとキューを持つ腕との角度が変化し続けるので、手の中でグリップが動く。その動きを妨げないように、指先で軽く持つ。手の平で握ってはならない。

9. ディスクをシュートする方法



① 狙いを定める (エイミング)

キューグリップを指先で軽く持ち、キューヘッドをディスクにセットする。両足を揃えて立ち、キューを持つ右腕を伸ばして下ろして、狙いを定める。

② 右足 (右利きの人) を1歩前にステップする

キューを持つ右腕を①の位置に残したまま、右足を1歩、前方にステップする。

③ 左足を1歩前にステップしてから、シュートする

キューを持つ右腕を①の位置に残したまま左足を1歩前方にステップし、伸ばして下ろしていた右腕を伸ばしたまま前方に振って、キューを目標に向けて押し出す。ディスクがシュートされる。

④ フォロースルー

シュート中に重心を左足 (前足) に移しながら、キューヘッドを目標に近づけるように右腕を前方に振るフォロースルーを行う。エイミングからフォロースルーまで、目標を見つめる。

10. ゲームの種類

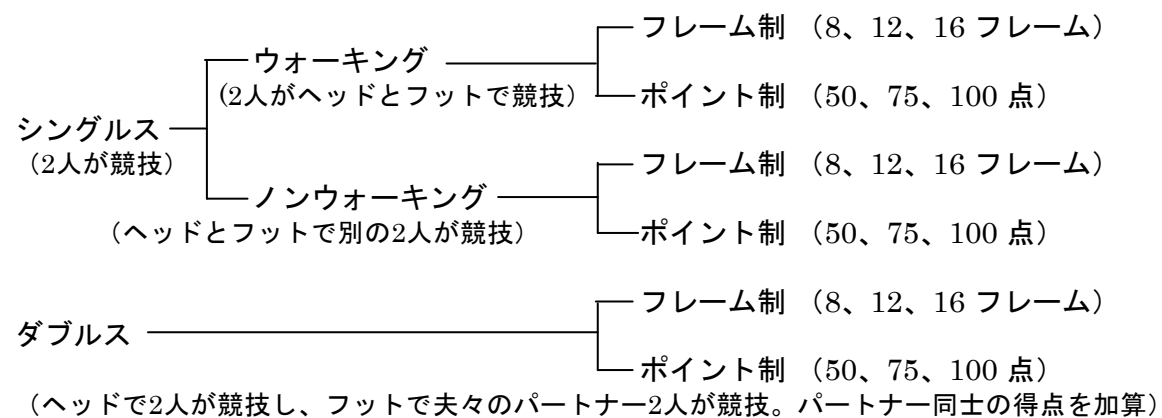
(1) 2人で競技するシングルスゲームと、4人で競技するダブルスゲームがある。

(2) シングルスゲームには、2人がヘッドとフットを往復して競技するウォーキング・シングルスゲームと、ヘッドとフットで別の2人が別の競技を行うノンウォーキング・シングルスゲームがある。

(3) フレーム制ゲームとポイント制ゲームがある。

フレーム制ゲームは、所定のフレーム数の競技を完了した時に、得点が多いプレイヤーが勝者になるゲームで、日本でよく行われている。

ポイント制ゲームは、あるフレームが終了時に、所定の得点に達したプレイヤーがゲームの勝者になるゲームで、1試合が3ゲーム2戦先勝制で行われる。米国とカナダの公式トーナメントは全てポイント制で行われている。



11. ゲームの進行及びとスコアボード記入方法

ウォーキング・シングルス・16フレームゲーム（AとBが競技）の例

1つのコートで、2人が競技を行う。2人は、コートのヘッドでプレーし、次にコートのフットに行ってプレーする。この往復を繰り返えしながら、16フレームのプレーを行う。

- ① 第1フレームは、2人がヘッドで、イエローが先攻で交互に各4枚のディスクをシュートした後、得点ディスクの総得点（フレームの得点）を、スコアボードに記入する。
- ② 第2フレームは、2人がフットで、ブラック先攻で交互に各4枚のディスクをシュートした後、そのフレームの得点と、第1フレームとの累計得点をスコアボードに記入する。
- ③ 第3フレームはヘッドでイエローが先攻。以下同様に第8フレームまで続ける。
- ④ 第8フレーム終了後、2人はイエローとブラックの位置を交代する（カラーチェンジ）。
- ⑤ 第9フレームはヘッドで、イエローが先攻。
- ⑥ 第16フレーム終了後の、累計得点が多いプレーヤーが勝者。

前半	A	7	7	(10)	10	0	14	7	8	
		7	14	4	14	14	28	35	43	
	B	8	0	15	0	7	(3)	7	0	
		8	8	23	23	30	27	34	34	
後半	B	0	8	7	0	7	10	7	7	
		34	42	49	49	56	66	73	80	Bが勝者
	A	7	(10)	14	0	8	(2)	15	0	
		50	40	54	54	62	60	75	75	

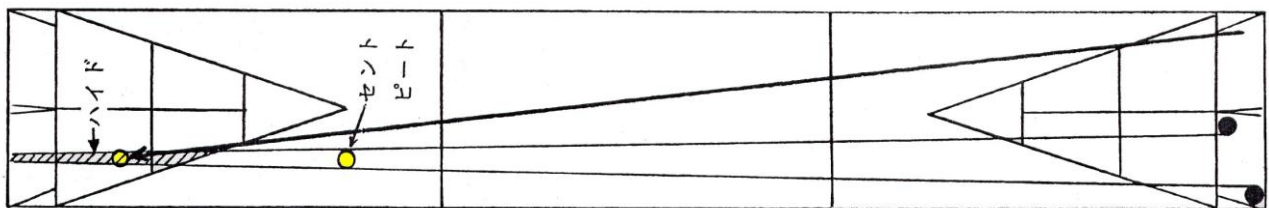
12. シャフルボードの基本技術

12-1 先攻の定石（予めガードを置く）

先攻が得点エリアに得点しても、無防備なので後攻に突き出されて、このフレームで得点するチャンスがない。そこで先攻は、第1ショットで、次のショットを背後に隠して防御するガードを置く。この予め置くガードには、セントピートとタンパがある。後攻はガードを除去するショットを行うが当てそこなったり、自分のキューディスクをガードディスクの正面に当てて残すと、先攻は残ったディスクの背後の相手の死角エリア（ハイド）に得点する。ガードを除去された時は、先攻は自分の第2、第3ディスクでもガードを置き相手のミスを待つ。これが先攻の定石。

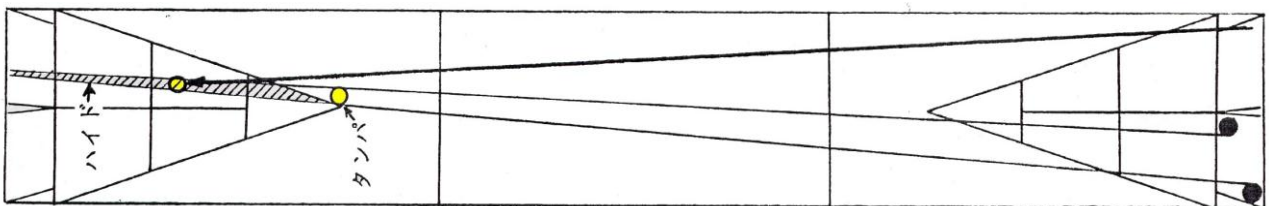
フロリダ州ブラデントン市の北方に、入江を挟んで、左にセントピーターズバーグ市（略称セントピート）、右にタンパ市があり、両市の名称が、位置が似ている二つのガードの名称になった。

(1) セントピート・ガード（略称：セントピート）を置く（第1図）



第1図

(2) タンパ・ガード（略称：タンパ）を置く（第2図）



第2図

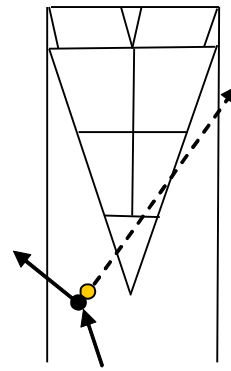
12-2 予め置くガードへの対応

(1) セントピート・ガードへの対応例 (第3図)

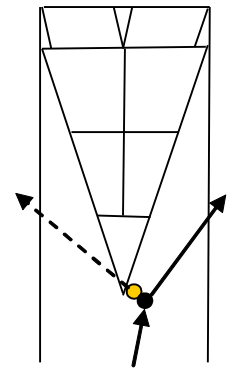
ガードを除去する。相手が利用しないように、セントピート・ガードも自分がシュートしたディスクもコート上に残さない。

(2) タンパ・ガードへの対応 (第4図)

ガードを除去する。相手が利用しないように、タンパ・ガードも自分がシュートしたディスクもコート上に残さない。



第3図



第4図

12-3. ゲームに勝つ基本戦法

(1) 先攻のプレイヤー

ほぼ同点か、リードしている時は、予め、セントピート又はタンパのガードを置き、相手がそのガードをクリア（取り除くこと）し損なった際に、残ったガードの背後に得点する。

大きくリードされた時は、オープンエリアに得点ディスクを置き、それに当てて残した相手のキューディスクを、キッチン（10-OFF エリア）に入れて減点させる。この囲（おとり）として置く得点ディスクをキッチンベイトと言い、挽回を図る起死回生の戦略である。

(2) 後攻のプレイヤー

ほぼ同点か、リードしている時は、対戦相手が置いたセントピートやタンパをクリアし、自分のキューディスクも残さない（クリア・ザ・ボードと言う）。そのフレームはクリア・ザ・ボードを繰り返し、ハンマー（フレームの最後の第8ショットのこと）で得点する。

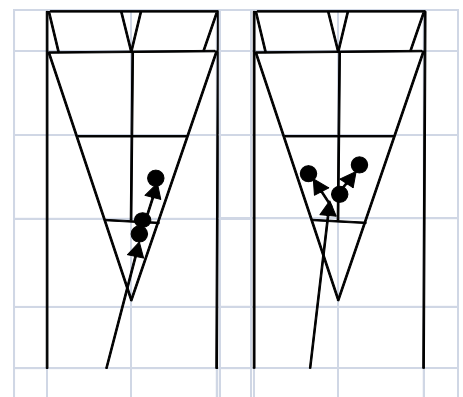
大きくリードされた際は、「先攻のプレイヤー」の場合と同様に、オープンエリアに得点ディスクを置くキッチンベイト戦略で、挽回を図る。

(3) 相手の得点ディスクとライナーは取り除く

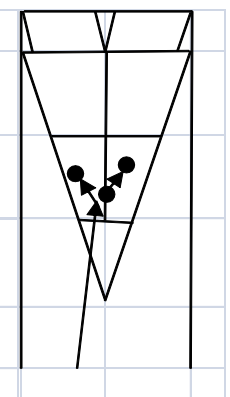
相手の得点ディスクは、プレー中は取り除き、ハンマーではキッチンに入れようとしながら、自分は得点する。スコアリングダイアグラム内の相手のライン上のディスク（ライナーと言う）は放置すると、相手がダブル得点する恐れがあるので、プレー中は取り除く。

12-4 ダブル得点 (第5図、第6図)

ライン上の自分のディスクに当てて得点にし、シュートしたキューディスクも得点にする。第5図は8/10 ラインダブル。第6図はセンターラインダブル。



第5図



第6図

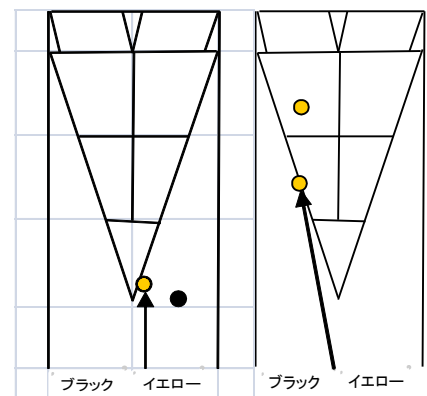
12-5 相手がシュートする経路を塞ぐブロック (第7図)

ブラックがセントピートの背後に得点するのを防ぐため、イエローが、ブラックのセントピートの内側のブラックのシュート経路を塞ぐブロック・ディスクを置いた例。

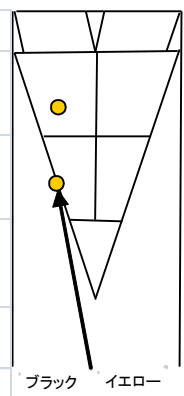
。

12-6 自分の得点ディスクを守るカバー (第8図)

イエローが、自分の得点ディスクを守るカバー・ディスクを置いた例。



第7図



第8図

13. プレーの写真



横浜市都筑区葛が谷公園コート



クイーンメリーⅡ世号甲板



初期の甲板のスコアリングダイアグラム

14. シャフルボードの技術資料

当協会のホームページ(<http://ysa3.web.fc2.com/>) に掲載している当協会作成資料

- (1) シャフルボード競技規定
(米国ナショナル・シャフルボード協会競技規定に準拠)
- (2) シャフルボード基本技術
- (3) シャフルボード・コーチ (シャフルボードの具体的戦法))
- (4) その他資料

以上